

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (主幹兼治水係長 小西克彦)	内線	4408 (4437)
------	-------	---------------------	--------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S54		現計画	再評価時点
事業名	広域基幹河川改修事業 (二)千種川水系千種川本川工区	着工年度	S54	総事業費	240億円	481億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	98億円	98億円
事業区間	赤穂市中広～赤穂郡上郡町井上			完成予定年度	H35	
所在地	赤穂市・赤穂郡上郡町			進捗率 (内用補進捗率)	75%(72%)	69%(66%)

事業の目的		事業内容				
<p>当該河川では多数の横断構造物が河積を阻害しているため、昭和45年8月の台風により甚大な浸水被害が発生した。このため、昭和45年災害の洪水に対応した治水安全度1/23の整備を目標として河川整備を進め、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。</p>		<p>計画流量 $Q=2,800\text{m}^3/\text{s}$ (治水安全度 1/23 : 赤穂市中広) 実施内容 $L=20,738\text{m}$ $W=255\sim 190\text{m}$ 築堤、掘削、護岸、道路橋12橋、 鉄道橋1橋、井堰8基等</p>				

進捗状況	<p>昭和54年から改修を開始し、下流から順次整備を進めてきた。再評価時点(平成10年度)から現在までに治水上のネックとなっているJR橋梁周辺の中洲の掘削及びJR橋梁の根固めが完了した。今後は、JR周辺の築堤護岸を完成させるほか、平成20年までに長谷川合流点上流右岸の築堤や(県)上郡橋の架替を完了させ、現況流下能力を向上させる。その後は事業区間上流部の(町)隈見橋付近の改修を実施し、平成35年に事業を完成させる予定である。また、河川整備計画を現在策定中である。(既往最大である昭和51年9月災害に対応した治水安全度1/80の改修計画(総事業費481億円)とともに、昭和45年8月災害に対応した治水安全度1/23の暫定計画(総事業費240億円)も位置付けられている。現在は、治水安全度1/23を目指して整備を進めているため、今回の再々評価では総事業費を240億円とした。)</p>
------	---

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> 昭和51年9月の台風17号では、浸水面積1840ha、浸水家屋数11,476戸の甚大な浸水被害を受けた。赤穂市内及び上郡町内における鉄道、病院、学校を含む公共施設の再度被害を防止するために継続的な整備の実施が必要である。
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> $B/C = 3.1$ (県)姫路上郡線の上郡橋の架替、上郡橋右岸の(県)西新宿上郡線の拡幅工事など、道路管理者と連携して整備を実施することにより効率的な事業執行が可能である。 現在、河川整備計画策定のための流域懇談会を開催しており、事業に対する地域住民の意識が高い。
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 上郡町内において、平成13年に地域整備と一体に良好な水辺空間を創る「ふるさとの川整備」区間の認定を受け、地元上郡町のまちづくりと一体となった川づくりに取り組んでいる。 当該施工区間では毎年「千種川まつり」等のイベントが行われているため、親水性、生態系に配慮し自然石や環境配慮型ブロックを用いた整備を行っている。
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 下流から順次整備を進めており、現在上郡町の中心市街地内を整備中である。市街地の再度の浸水被害を防止するため、残事業区間を早期に改修する必要がある。

再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。
---------	------	------	---------------------